

6-2 事業活動報告交流会の実施

公益事業に対する理解の普及と協力を得ることを目的に、全国の大学・短期大学の関係者を対象に12月2日に関西・中四国地域（会場：関西大学）、12月5日に九州地域（会場：福岡大学）、12月8日に東北地域（会場：東北学院大学）、12月9日に北海道地域（会場：北海学園大学）、12月13日に東海地域（会場：中部大学）にて向殿会長、宮川副会長、事務局長が出向して実施した。5地域で47大学8短期大学、191名が参加し、その内、非加盟校は7大学5短期大学で14名（7％）であった。教員の参加は、58名（30％）、職員133名（70％）で教員は昨年度より5％増加した。参加教員の約6割、参加職員の約3割によるアンケート結果の概要を報告する。

（1）事業活動に関する感想

- ① 教員からは、「多岐に亘る教育のICTの重要性を認識させるために重要な活動を行っていることを感じた。未来を見据えた大変な活動だと思った」、「各大学の取り組みについて報告するという機会はとてもよいと思う。報告内容についてもWeb上に公開し、教員や大学への周知を図ってはどうか」、「私立大学の情報教育のサポートをしっかりと実施されていると思う」、「外部評価については、是非積極的に行っていただきたい。この問題はICTだけの問題ではないと思う」、「全国の大学で行われているような活動のまとめを行われていてありがたいと思う」など、事業活動が教員の方々に歓迎されていることが伺えた。
- ② 職員からは、「ホットなテーマである教育の質保証や著作権についてICT関連の知識とともに聞けてよかった」、「非会員校だが、非常に多岐に亘る活動の状況がよく分った。補助金関係、セキュリティ関係の話題が聞けて助かった。」、「多くのことをされているのを目の当たりにし驚いた。逆にそれだけ本学も取り組むべきことが多いということで、身の引き締まる思いだ」など、情報提供が極めて有益であることが伺えた。

（2）事業全般に対する要望・感想

- ① 教員からは、「協会が実施されている各レベル、各段階における事業内容について、講習（広報活動）を継続的に行っていただければ幸い」、「収集情報の分析と迅速な公開、学部の特性に応じた教育モデルの構築」、「教育の著作権に関する制限は大きい影響があるので今後も改善に努めてもらいたい」、「東京が会場のため参加するのが困難、Webでの公開などしていただけるとありがたい」など、事業活動のPRを積極化することの必要性が伺えた。
- ② 職員からは、「情報と教育のバランスを考慮して事業を展開されることを要望したい。」、「難しいと思うが、関西でも対話集会などもっと多く開催いただきたい。」、「学内への案内を流しても反応がにぶいため、興味をもたれるようなアナウンス方法・アプローチを望む。」などであった。

（3）運営等に対する要望・感想

- ① 教員からは、「所属学部学科を振り返る良い機会になりそう」、「教育の質的転換を図るスライドは良くまとめられていた、著作権の話は良かった」、「とてもためになる会だったと思う、できればもう少し時間があればよかった」など、情報提供の仕方、交流会の進め方について検討の必要性を確認した。
- ② 職員からは、「総会と交流会の役割を明確化し、交流会でしか聞けない内容に重点をおいて欲しい」、「多岐に亘る非常に充実した内容なので、もう少し長い時間で詳しく聞ければと思った」などの感想があった。

以上を通じて、本協会の事業が教職員に知られていないことが多く、事業への理解が私立大学全体に広がっていないことを感じた。また、意見交流での話題として、情報リテラシー教育で提案している問題発見・解決思考の教育モデル構築の要望、知識を組み合わせる分野横断型PBL教育モデルの実験に対する関心が高いこと、著作権法改正に関する大学負担の問題を軽減するための補助制度の要望など、積極的な意見交換が行われた。